東映衛星放送株式会社

第２０回番組審議委員会議事録

開催日時：　令和６年１０月２２日（火）１４時００分～１５時００分
開催場所：　銀座 Sun-mi 本店
委員の出席：　委員の総数　８名　出席委員数　７名
出席者：
（番組審議委員）
■出席：脇田巧彦（委員長）、有山弘道、秋本鉄次、常見美佐子、赤城聡、杉恭介、三浦理高
■欠席：伊藤さとり

（以上　敬称略）

（放送事業者側出席者）

代表取締役社長	鈴木英夫
常務取締役衛星事業部長兼管理部長	山本健太郎
衛星事業部編成室長	今森泰一朗
衛星事業部営業室長	大越鉄平
管理部管理室長	重盛文子

議題：　「東映チャンネル」の編成内容に関する審議

放送事業者側出席者より、東映チャンネルの現況、直近一年間の編成内容に関する説明の後審議に入った。

＜番組審議委員の発言＞

１.東映チャンネルはマニアックな特集が多く、東映に特別な思い入れがある視聴者層と合致している。他局との差別化が図れている。
　東映荒波計画で、東映ならではのブランディングを行っているのは好ましい。
　名画座や特殊上映でチラシを設置して、東映チャンネルの啓蒙を行うのはどうか？
《放送事業者側からの回答》
　都内名画座にチラシを設置している。

２.有料テレビはユーザーとして厳しくなっていると感じている。レンタルやフィジカルメディアが終わっていく中で、配信は今後どうなっていくのか。放送はどうなっていくのか、CS放送の役割を含めて考えていくべきだ。

３.『ハッスルパンチ』大山のぶ代さん、『もーれつア太郎』山本圭子さんなど、レジェンド声優の特集を放送していただけると嬉しい。

４.視聴スタイルは変わっても映画が好きで見る人は減らないので、コアな映画ファンを満足させる企画を継続して欲しい。『あぶない刑事』といった若い頃見ていた作品が見られるように、体験させて加入させる施策を期待している。

５．多メディアの中からのシェアの取り合いというより、東映というブランディングの特殊性をアピールすべきだ。

６．配信の加入者が増加しているが、東映チャンネルは東映のコンテンツが充実していることが強みだ。特に旧作は、HD リマスター版で目を見張るほど美しい画像で生まれ変わっている。高齢者個人や老人ホームやシニアマンションの方々に知っていただきたい。

　オリジナル番組「ピンスポ！」で語る役者の近影や思い出話は東映チャンネルでしか見られない貴重なものなので、この企画は長く続けていただきたい。

以上